

《課題名》

胃癌術前化学療法症例の後方視的検討

《対象者》

当院で 2011 年 4 月から 2027 年 2 月までに化学療法後に胃癌切除術を受けた患者さん

研究協力をお願い

当科では「胃癌術前化学療法症例の後方視的検討」という研究を行います。この研究は、当院で 2011 年 4 月から 2027 年 2 月までに化学療法後に胃癌切除術を受けた患者さんの臨床情報を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただく前に、この掲示などによるお知らせをもってご同意を頂いたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。また希望されれば、計画書等研究に関連する資料を個人情報保護と研究に支障がない範囲に限り閲覧することができます。

(1) 研究の概要について

研究課題名： 胃癌術前化学療法症例の後方視的検討

研究期間： 承認日～2027 年 2 月 28 日

実施責任者： 滋賀医科大学 外科学講座 教授 谷 眞至

(2) 研究の意義、目的について

《研究の意義、目的》

高度進行胃癌の患者さんに術前化学療法を行ってから手術を行うことについては未だ議論のあるところであり、遠隔転移を伴う Stage IV の胃癌では、非根治切除因子の消失のある症例ではその後の根治手術で予後の延長を期待することができます。一方、遠隔転移のない症例でも他臓器浸潤、Bulky リンパ節転移を有する症例では行った方が予後を改善するという報告もありますが、予後に関する因子については一定の見解が得られていないのが現状です。

今回、高度進行胃癌の化学療法後に根治手術を行った患者さんの臨床経過を評価し、臨床病理学的因子および予後について検討します。

(3) 研究の方法について

《研究の方法》

後ろ向き観察研究。当院で 2011 年 4 月から 2027 年 2 月までに治療をおこなった患者の中で、高度進行胃癌で化学療法を行い、その後根治手術を受けた方の臨床経過、検査値を評価します。また、電子カルテより患者さんの年齢、性別、術前腫瘍マーカー、腫瘍部位、組織型、腫瘍深達度、リンパ節転移、脈管浸潤、リンパ管浸潤、肝転移、肺転移、腹膜播種、病期、再発といった情報を利用します。

(4) 予測される結果（利益・不利益）について

参加頂いた場合の利益・不利益はありません。

(5) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人情報を直接同定できる情報は使用されません。また、研究発表時にも個人情報は使用されません。

(6) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌およびデータベースなどで公表します。

(7)問い合わせ等の連絡先

滋賀医科大学 外科学講座 貝田 佐知子

住所：520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

電話番号： 077-548-2238

メールアドレス： hqsurge1@belle.shiga-med.ac.jp